

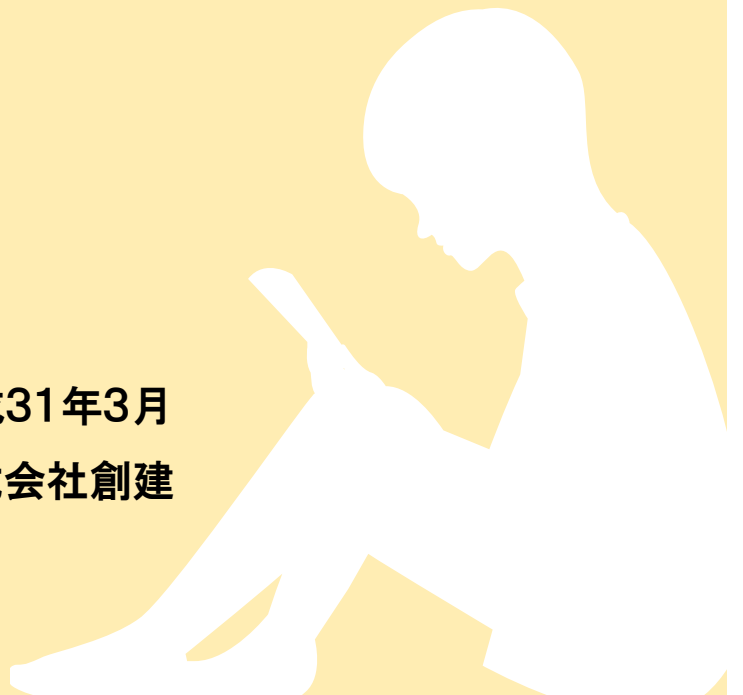
平成30年度
文部科学省委託調査

子供の読書活動の推進等に関する調査研究

報告書概要版



平成31年3月
株式会社創建



調査概要

調査研究の目的

- 第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」では、スマートフォン等の電子メディアの普及が子供の読書環境に影響を与えている可能性があることを踏まえ、その影響に関する実態把握・分析を行う必要があるという認識が示されている。
- 既存の調査・研究においても、電子メディアの利用が増加傾向にあり、そのことが読書活動に影響を与えている可能性は示唆されてきた。
- それら既存の知見を踏まえつつも、本調査では、電子メディアが電子書籍をはじめとするテキストを読むこともできることを踏まえ、読書活動に対する積極的な影響をもたらす可能性も念頭に置き、子供の電子メディアの利用実態を把握し、読書活動等との関係を捉えることを目的とする。

- 調査名称 新しい時代における電子メディアと読書に関する調査
- 調査方法 ウェブモニター調査
※株式会社マクロミルの登録モニター及び回答画面を利用
- 対象 全国の小学5年生～高校3年生相当の子供とその保護者
- サンプル数 12,489サンプル
- 実施期間 平成30年12月18日(火)～平成30年12月28日(金)

小学生	5年生			6年生					
	男子	女子	合計	男子	女子	合計			
件数(人)	780	780	1,560	780	780	1,560			
割合(%)	6.2	6.2	12.5	6.2	6.2	12.5			
中学生	1年生			2年生			3年生		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
件数(人)	780	781	1,561	780	781	1,561	781	780	1,561
割合(%)	6.2	6.3	12.5	6.2	6.3	12.5	6.3	6.2	12.5
高校生	1年生			2年生			3年生		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
件数(人)	780	782	1,562	780	782	1,562	781	781	1,562
割合(%)	6.2	6.3	12.5	6.2	6.3	12.5	6.3	6.3	12.5

※上記「高校生」の各学年には、学校に通っていない子供も含まれる。以後、学校に通っていない場合も「高校生」と表記する。

分析の視点

- 電子メディアの特徴は、これまで読書活動と対比されてきたテレビやゲームなどと異なり、テキストを読むこともできることである。この特徴を踏まえ、本調査では、電子メディアを読書活動に類するかたちでも利用され得るものであると捉える。
 - これまで子供の電子メディア利用に関する調査は、利用の有無や利用時間に着目するものが多かった。それに対して本調査は、電子メディアの利用方法やその目的に着目する。
 - 特に読書活動の観点から「電子メディアを使って何をしているのか」ということを把握し、その具体的な利用方法の中から電子メディアにおける読書活動を捉えることを企図している。
- ※なお、分かりやすさを重視し、例えば電子書籍と区別するため「紙の本での読書」と記述する場合もある。

過去1ヶ月間における紙の本での読書

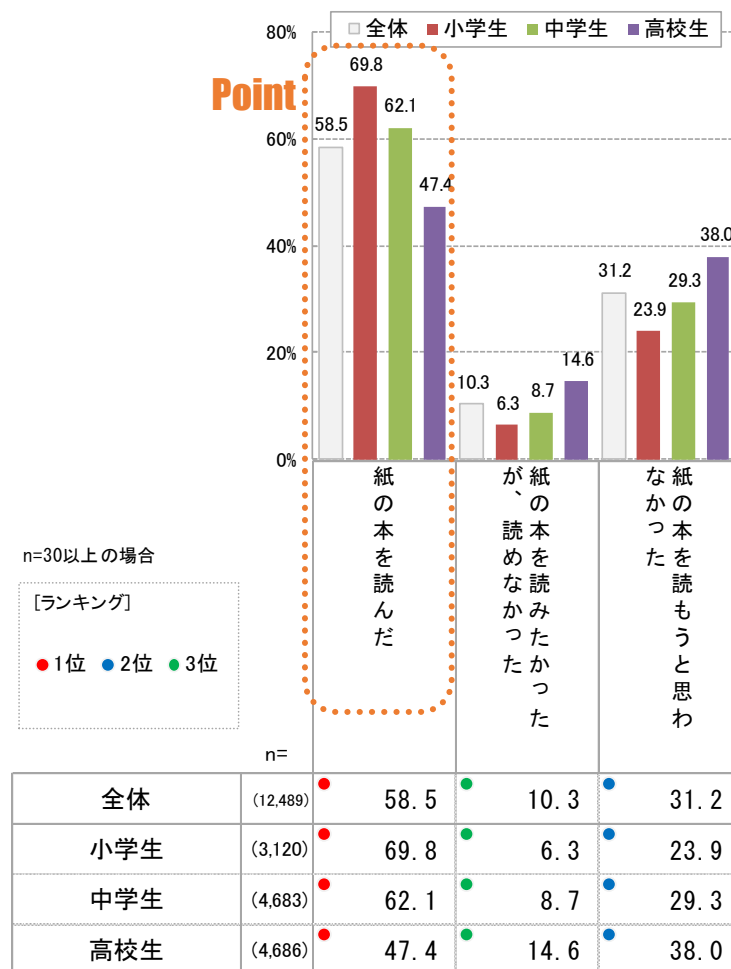
分析のポイント

過去1ヶ月間に子供は紙の本を読んだか？

分かったこと

■紙の本での読書をした子供の割合は、小学生、中学生、高校生の順に多い。

○過去1ヶ月間において「紙の本を読んだ」子供は、小学生で**69.8%**、中学生で**62.1%**、高校生で**47.4%**である¹。



図表1 過去1ヶ月間における紙の本での読書²

¹ 「紙の本を読んだ」の割合は、次頁の選択肢のうち「本を読みたくて自分から読んだ」、「学校の朝の読書など、学校での活動で本を読んだ」、「学校の宿題で出された本や授業のなかで本を読んだ」、「その他の方法で読んだ」のいずれかを選択した子供の割合である。

なお、紙の本には教科書、学習参考書、マンガ、雑誌は含まれないことを断った上で回答いただいた

² 各割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。以下の図表も同様である。

紙の本での読書の方法

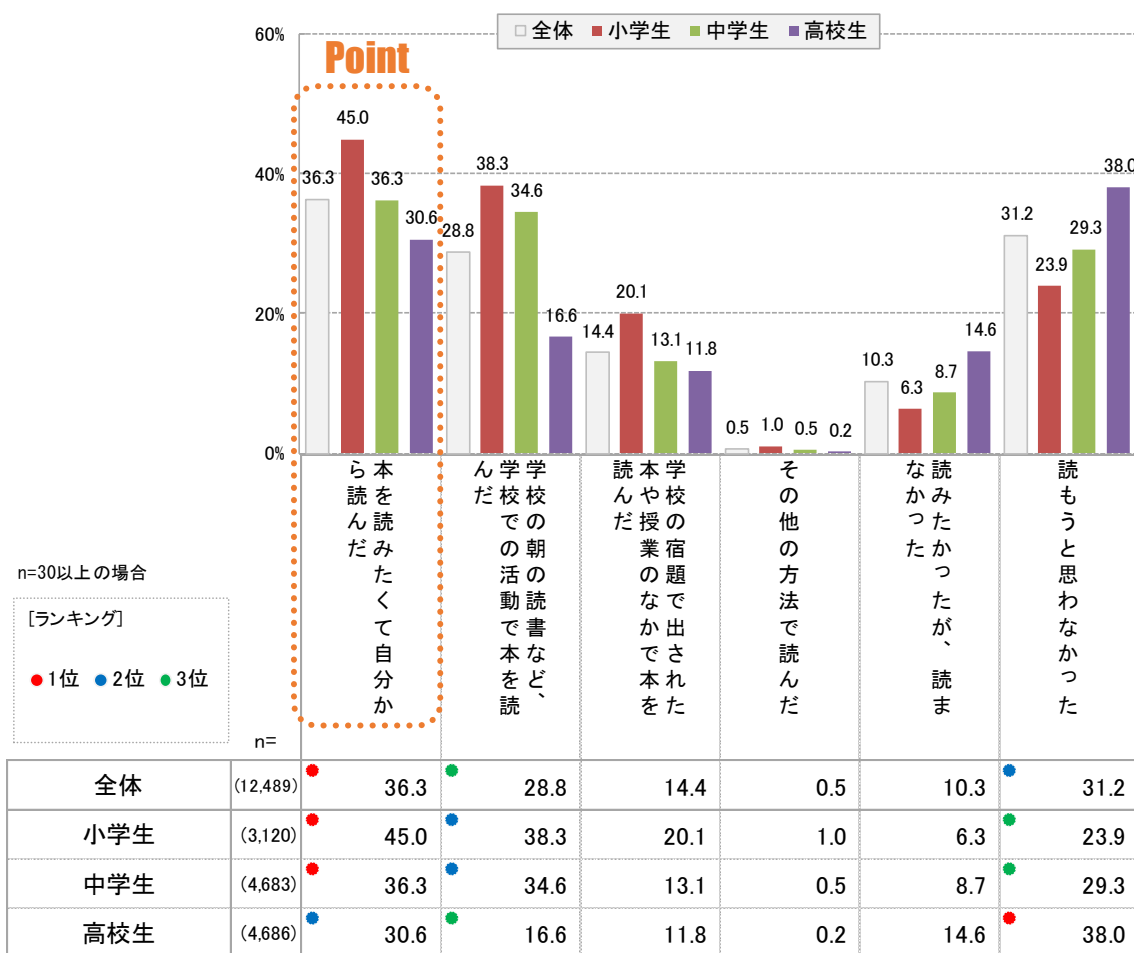
分析のポイント

自分から進んで紙の本を読んだ子供はどれぐらいいるか？

分かったこと

■自分から進んで紙の本での読書をした子供の割合は、小学生、中学生、高校生の順に多い。

○「本を読みたくて自分から読んだ」は、小学生で45.0%、中学生で36.3%、高校生で30.6%である。



図表2 過去1ヶ月間における紙の本での読書(詳細)³

³ 図表2は複数回答の設問を図表化しているため、全体及び各学校種の割合を合計しても100%にはならない。

過去1ヶ月間における電子書籍での読書

分析のポイント

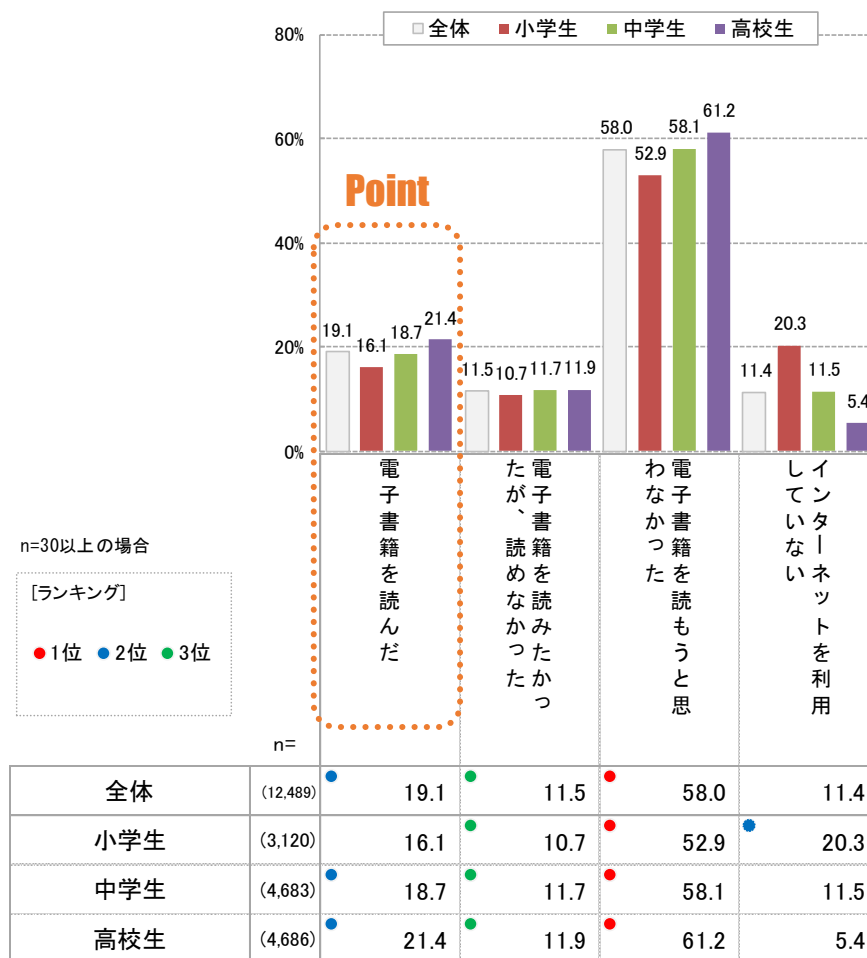
過去1ヶ月間に子供は電子書籍を読んだか？

分かったこと

■小学生、中学生、高校生のいずれも、約2割の子供が過去1ヶ月間において電子書籍を読んだ。

○過去1ヶ月間において「電子書籍を読んだ」子供は、小学生で**16.1%**、中学生で**18.7%**、高校生で**21.4%**である⁴。

○インターネットを利用した子供に限定すると、過去1ヶ月間において「電子書籍を読んだ」子供は、小学生で**20.2%**、中学生で**21.1%**、高校生で**22.7%**である。



図表3 過去1ヶ月間における電子書籍での読書

⁴ 「電子書籍を読んだ」の割合は、次頁の選択肢のうち「オンライン書店でダウンロードして読んだ」、「小説や読み物が読める無料のサイトやアプリで読んだ」、「図書館で電子書籍を借りて読んだ」、「その他の方法で読んだ」のいずれかを選択した子供の割合である。

なお、電子書籍には教科書、学習参考書、マンガ、雑誌は含まれないことを断った上で回答いただいた。

子供が読んだ電子書籍の入手方法

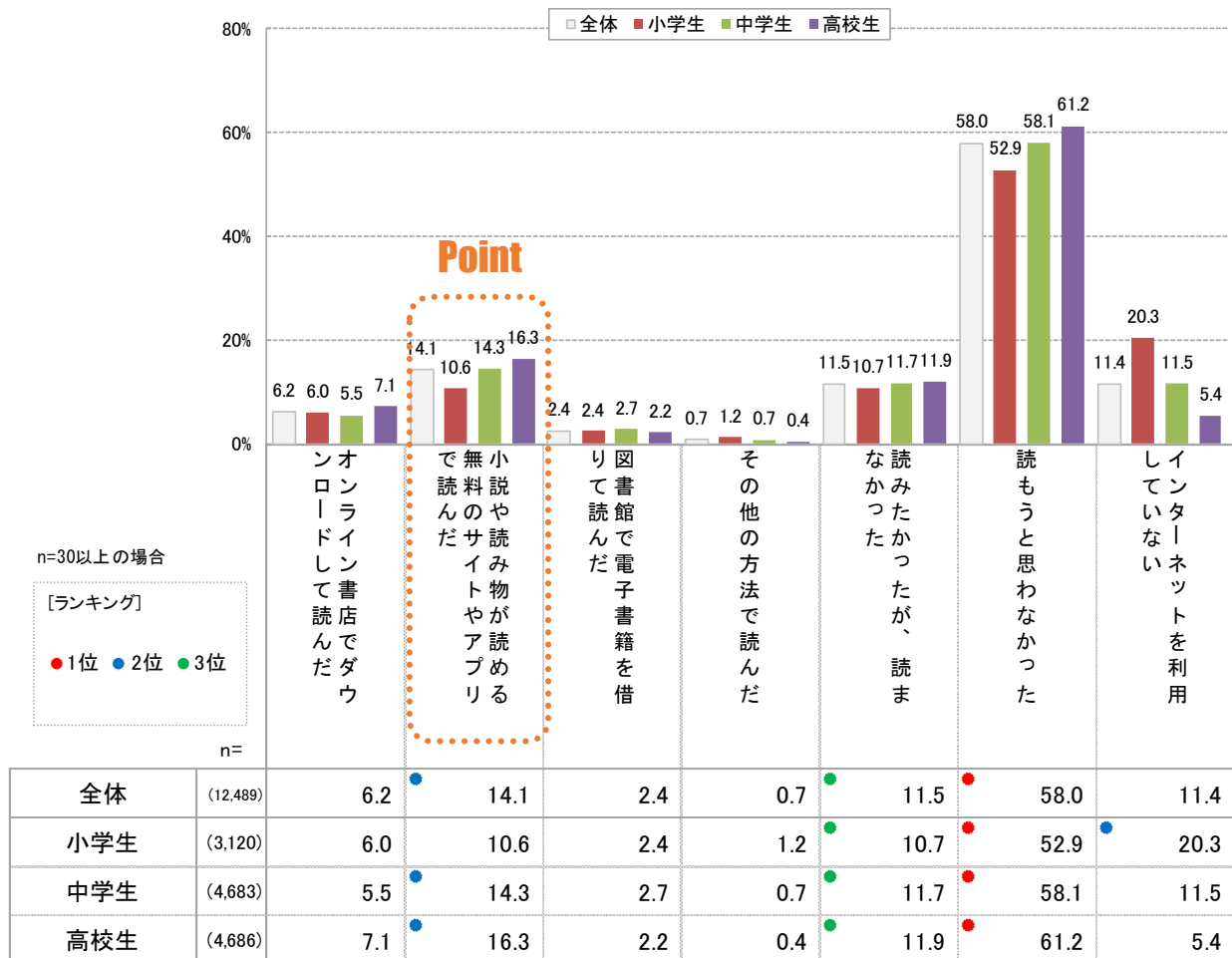
分析のポイント

子供はどのようにして電子書籍を入手したのか？

分かったこと

■小学生、中学生、高校生のいずれも、オンライン書店でダウンロードして読むよりも、無料のサイトやアプリで電子書籍を読むことが多い。

○過去1ヶ月間において読んだ電子書籍の入手方法をみると、「小説や読み物が読める無料のサイトやアプリで読んだ」が入手方法の中では最も多く、小学生で10.6%、中学生で14.3%、高校生で16.3%である。



図表4 過去1ヶ月間における電子書籍での読書(詳細)⁵

⁵ 図表4は複数回答の設問を図表化しているため、全体及び各学校種の割合を合計しても100%にはならない。

電子書籍及び紙の本での読書

分析のポイント

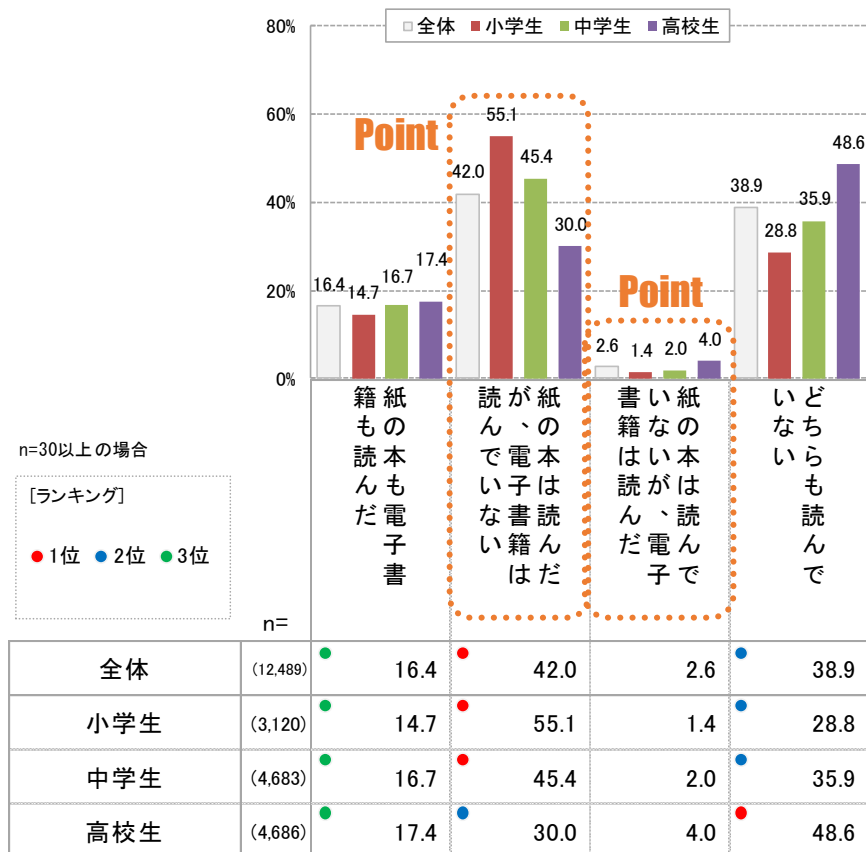
紙の本を読まず、電子書籍だけ読んだ子供はどれぐらいいるのか？

分かったこと

- 小学生、中学生では、紙の本は読んだが、電子書籍は読んでいない割合が多い。
- 紙の本は読んでいないが、電子書籍は読んだ割合は、小学生、中学生、高校生のいずれも少ない。

- 読書の実態を把握するため、右の4つの分類で分析を行った。
- 結果、小学生と中学生では「紙の本は読んだが、電子書籍は読んでいない」が最も多く、それぞれ**55.1%**、**45.4%**である。高校生では「どちらでも読んでいない」が**48.6%**で最も多い。
- 「紙では読んでいないが、電子書籍では読んだ」は、小学生で**1.4%**、中学生で**2.0%**、高校生で**4.0%**である。
- 紙の本を読んでいる子供(「紙の本も電子書籍も読んでいる」と「紙の本は読んだが、電子書籍は読んでいない」の合計)のうち、電子書籍を読んだ子供の割合は**28.1%**である。

- ①紙の本も電子書籍も読んだ
- ②紙の本は読んだが、電子書籍は読んでいない
- ③紙の本は読んでいないが、電子書籍は読んだ
- ④どちらも読んでいない



図表5 媒体を組み合わせた読書実態

電子書籍を読んだ子供の電子書籍等に関する捉え方

分析のポイント

電子書籍を読んだ子供は、 電子書籍の利点を実感しているのか？

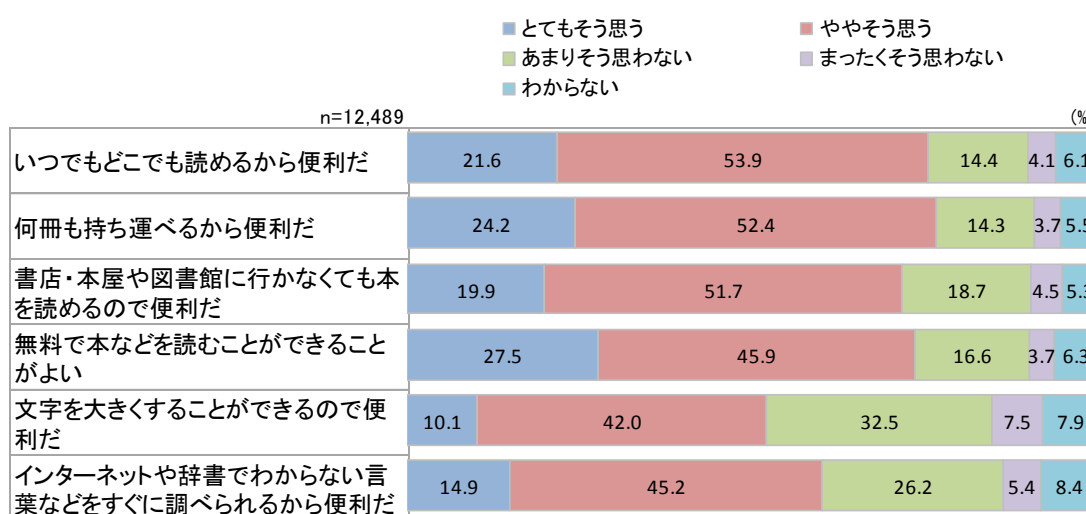
分かったこと

■持ち運びや入手にあたっての利便性を感じており、電子書籍での読書をした子供に限っては、全体と比べて、一つのデバイスで複数の本が読み比べられることやキーワード検索など、読書活動に関わる点に利便性を感じられている。

○回答者全体で見ると、「とてもそう思う」の割合は、「無料で本などを読むことができることがよい」が**27.5%**で最も多く、次いで「何冊も持ち運べるから便利だ」が**24.2%**、「いつでもどこでも読めるから便利だ」が**21.6%**で続く。(図表6)

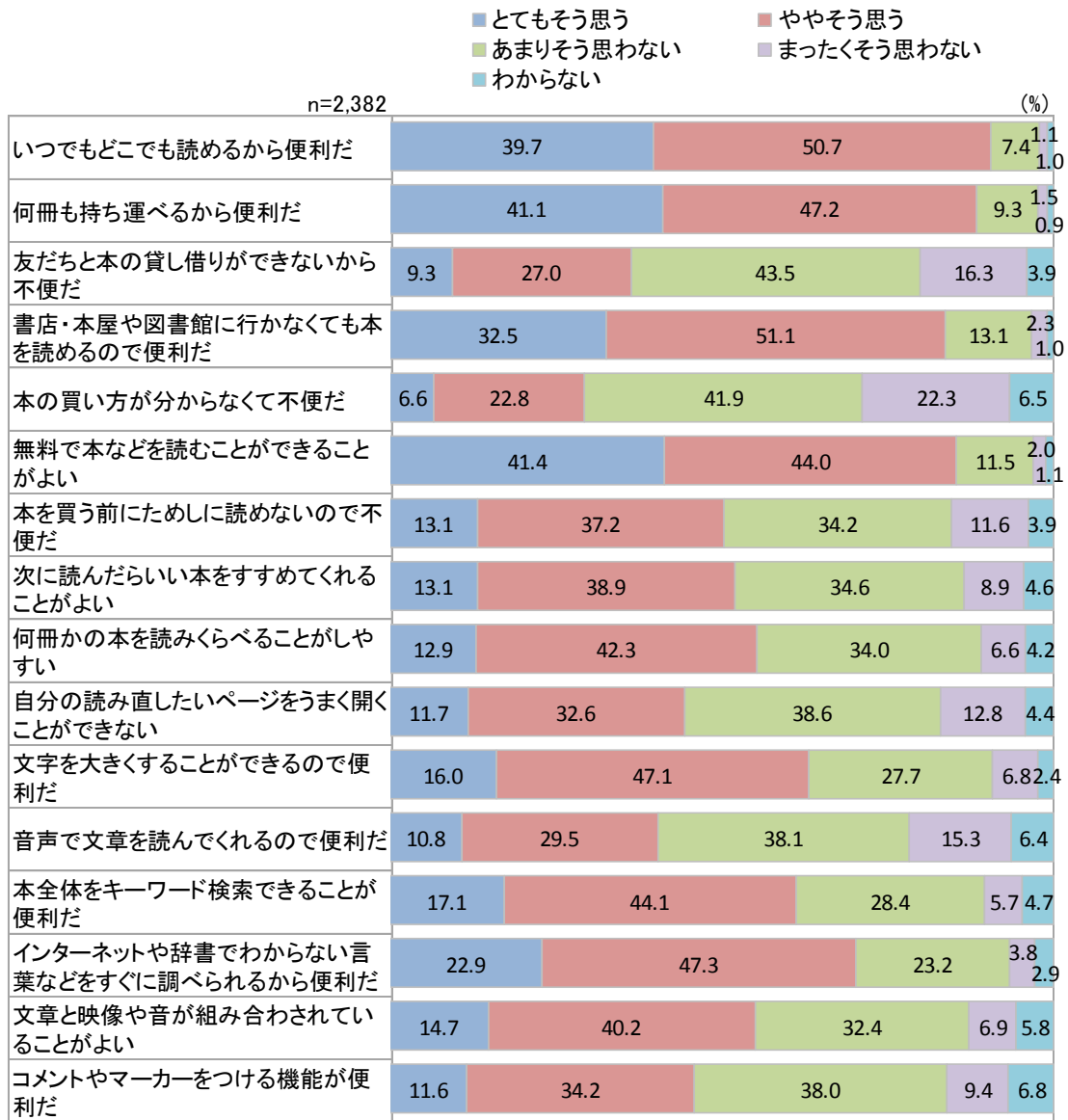
○肯定的な項目のうち「とてもそう思う」と「ややそう思う」の合計が**5割**を上回るのは、回答者全体では「書店・本屋や図書館に行かなくても本を読めるので便利だ」、「文字を大きくすることができるので便利だ」、「インターネットや辞書でわからない言葉などをすぐに調べられるから便利だ」である。(図表6)

○電子書籍を読んでいる子供に関しては、「本を買う前にためしに読めないのが不便だ」、「次に読んだらいい本をすすめてくれることがよい」、「何冊かの本を読みくらべることがしやすい」、「本全体をキーワード検索できることが便利だ」、「文章と映像や音が組み合わされていることがよい」も**5割**を上回る。(図表7)



図表6 子供の電子書籍に対する捉え方⁶

⁶ 図表6は、電子書籍について尋ねた選択肢のうち、「とてもそう思う」と「ややそう思う」の合計が5割を上回っている項目のみを抜粋して作成した。次頁の図表7はすべての選択肢を図表化しているが、母数は電子書籍を読んだ子供である。



図表7 電子書籍を読んだ子供の電子書籍に対する捉え方

電子図書館に対するニーズ

分析のポイント

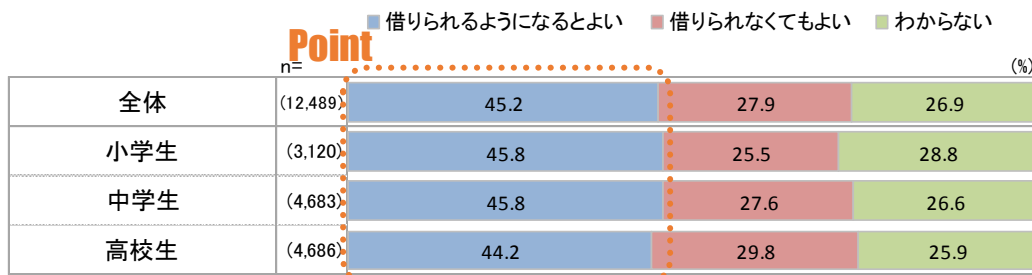
子供は、電子書籍を図書館等で借りたいと思うのか？

分かったこと

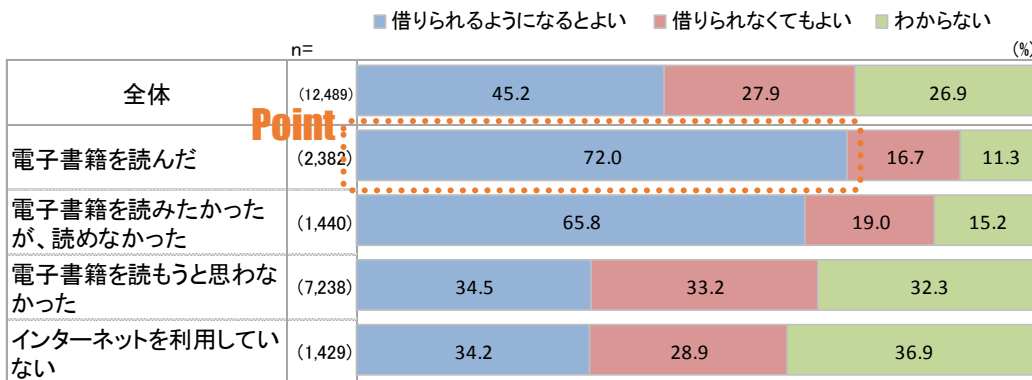
- 小学生、中学生、高校生のいずれも、4割台の子供が図書館等において電子書籍を借りられるようになるよといと思っている。
- そのうち電子書籍での読書をした子供に限っては約7割が電子書籍を借りられるよになるとよと思っている。

○図書館や学校図書館において電子書籍が「借りられるようになるよ」と思う子供は、小学生で**45.8%**、中学生で**45.8%**、高校生で**44.2%**である。(図表8)

○電子書籍での読書をした子供(「電子書籍を読んだ」)のうち、電子書籍が「借りられるようになるよ」と思う子供は、回答者全体で**72.0%**である。(図表9)



図表8 図書館等で電子書籍を借りられるようになるよと思うかどうか



図表9 電子書籍での読書をした子供が図書館等で電子書籍を借りられるようになるよと思うかどうか

幼少期以降の読み聞かせ

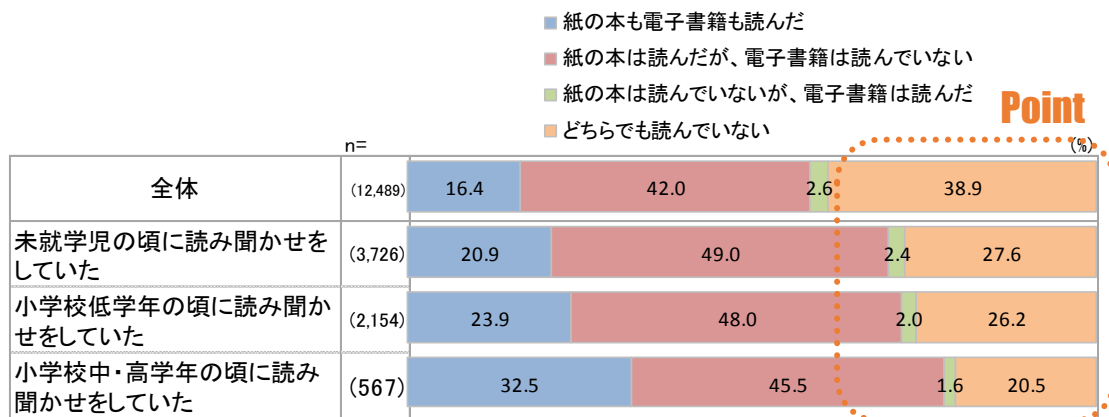
分析のポイント

読み聞かせをしていた家庭の子供は本を読むのか？

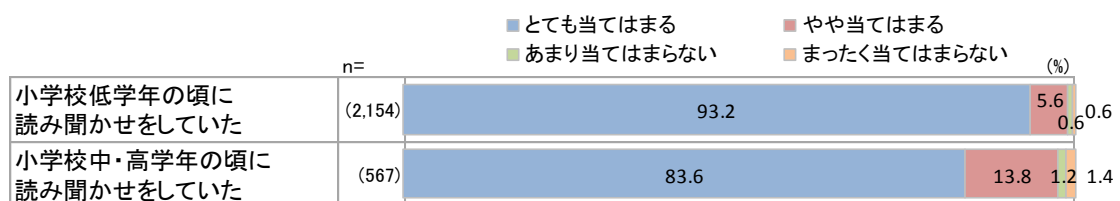
分かったこと

- 小学校中・高学年の頃に読み聞かせをしていた家庭の子供は、その他の場合に比べて本を読んでいない子供の割合が少ない。
- 未就学児の頃から、小学校低学年、中・高学年へと学年が上がるにつれて読み聞かせの割合は減ってくるが、高学年まで読み聞かせをしていた子供ほど、本を読んでいない子供の割合が少ない。

- 回答者全体でみると、未就学児の頃に読み聞かせをしていた家庭の子供は、「どちらでも読んでいない」は**27.6%**である。全体における「どちらでも読んでいない」(38.9%)に比べて少ない。(図表10)
- また、小学校低学年ならびに小学校中・高学年の頃に読み聞かせをしていた家庭では、それぞれ**93.2%**、**83.6%**が未就学児の頃にも読み聞かせをしている。(図表11)
- 読み聞かせを行っていた時期別に「どちらでも読んでいない」の割合をみると、小学校低学年の頃に読み聞かせをしていた家庭は**26.2%**、小学校中学年・高学年の頃に読み聞かせをしていた家庭は**20.5%**である。(図表10)



図表10 読み聞かせの状況からみた子供の読書実態⁷



図表11 小学校進学以降に読み聞かせをしていた家庭の未就学児の頃の読み聞かせの状況⁸

⁷ 図表10は、それぞれの時期における読み聞かせをしていたかどうかについて「とても当てはまる」と回答した回答者を抽出し、子供の読書実態を図表化したものである。なお、ここでいう「全体」は回答者全員であり、図表5の「全体」と同一である。

⁸ 図表11は、小学校低学年、中・高学年の頃に読み聞かせをしていたかどうかについて「とても当てはまる」と回答した回答者を抽出し、未就学児の頃の読み聞かせの状況を図表化したものである。

過去1ヶ月におけるインターネットの利用

分析のポイント

過去1ヶ月間に子供は どのようにインターネットを利用したのか？

分かったこと

■小学生、中学生、高校生のいずれも、動画や音楽サイトを利用する子供の割合が最も多く、続いて、検索サイトを使って何かを調べたり、情報を集める利用方法が多い。

○小学生、中学生、高校生のいずれも、「ユーチューブなどで動画や音楽を観たり、聴いたりした」が約7割で最も多く、次に「検索サイトを使って調べ事や情報を集めた」が**6割台**で続く。

n=30以上の場合

[ランキング]

● 1位 ● 2位 ● 3位

	全体	小学生	中学生	高校生
n=	(11,060)	(2,486)	(4,143)	(4,431)
新聞のウェブ版やニュースサイトなどで新聞記事を読んだ	28.6	23.7	26.3	33.6
マンガを読んだ	24.9	18.7	23.8	29.4
雑誌のオンライン版やウェブマガジンを読んだ	7.7	6.0	6.8	9.4
その他、好きなサイトやブログにアクセスし、記事を読んだ	36.8	26.0	35.7	43.8
インターネット上の事典・図鑑を使って調べ事をした	25.1	21.8	25.0	27.1
Point 検索サイトを使って調べ事や情報を集めた	● 65.2	● 61.7	● 65.2	● 67.1
インターネット上の事典・図鑑や検索サイト以外のサイトやアプリで調べ事や情報を集めた	16.8	14.1	15.6	19.4
ツイッターやフェイスブック、インスタグラムなどのSNSを使った	33.4	15.8	27.9	48.4
ユーチューブなどで動画や音楽を観たり、聴いたりした	● 71.8	● 69.6	● 73.1	● 71.9
● ゲームアプリやオンラインゲームを使った	● 48.9	● 46.9	● 48.5	● 50.4
勉強のためのサイトやアプリを使った	22.8	17.7	22.4	25.9
メールやチャットをした	39.6	26.4	36.4	49.9
その他の使い方	0.3	0.5	0.3	0.2
1か月間、インターネットを使わなかった	1.9	3.3	2.0	1.0

図表12 過去1ヶ月間における電子メディア利用⁹

⁹ 図表12は複数回答の設問を図表化しているため、全体及び各学校種の割合を合計しても100%にはならない。

過去1ヶ月間における保護者の電子書籍での読書

分析のポイント

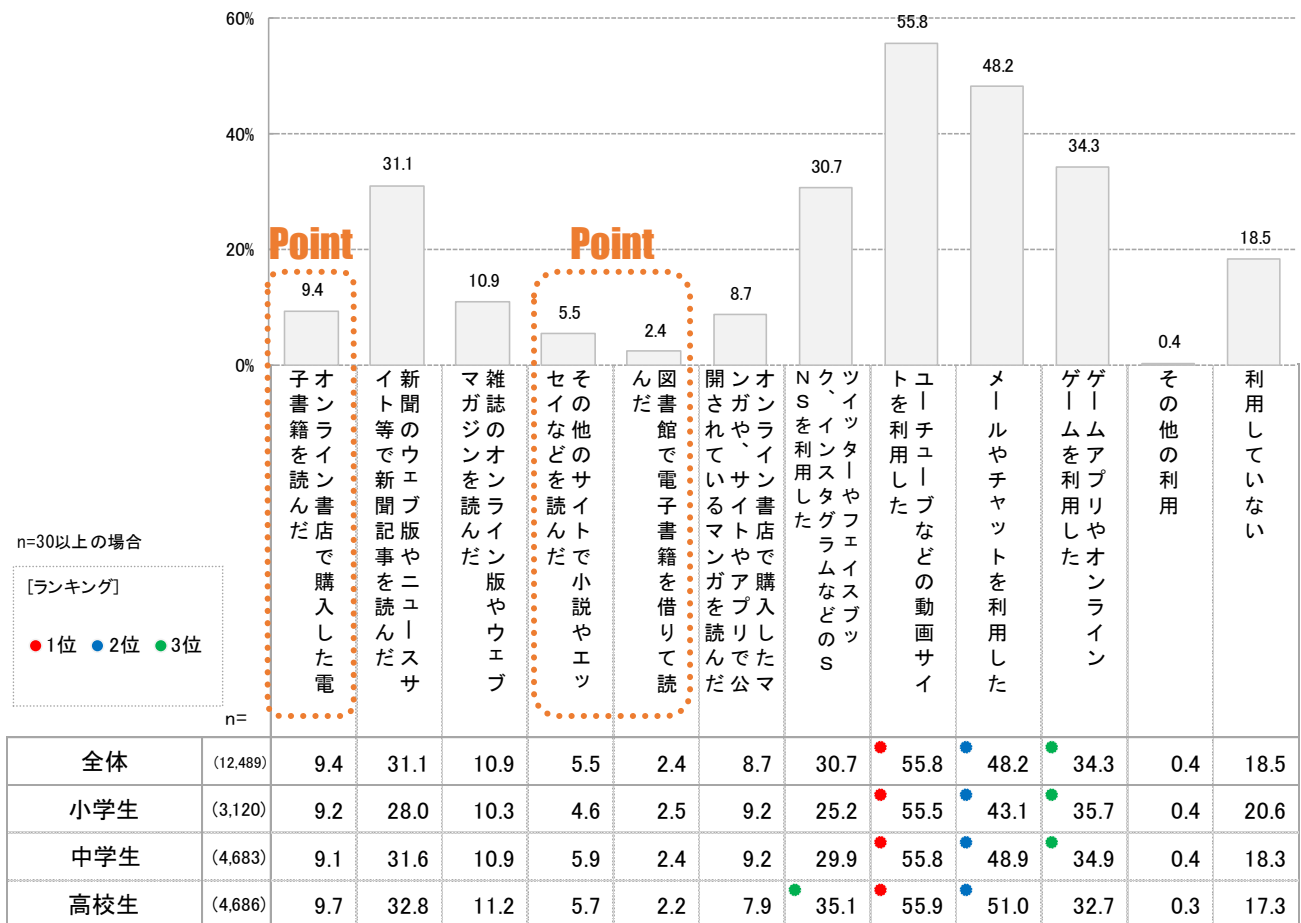
過去1ヶ月間に保護者は電子書籍を読んだのか？

分かったこと

- 過去1ヶ月間において電子書籍を読んだ保護者は約1割である。
- 保護者における電子書籍での読書の状況は、オンライン書店で購入して読む方が、無料のコンテンツを読むよりも多い。

○保護者の電子書籍での読書をみると、「オンライン書店で購入した電子書籍を読んだ」が**9.4%**、「その他のサイトで小説やエッセイなどを読んだ」が**5.5%**、「図書館で電子書籍を借りて読んだ」が**2.4%**である¹⁰。

○「オンライン書店で購入した電子書籍を読んだ」、「その他のサイトで小説やエッセイなどを読んだ」、「図書館で電子書籍を借りて読んだ」のいずれかを選択した保護者(電子書籍での読書をした保護者)は**13.8%**である¹¹。



図表13 保護者の過去1ヶ月間の電子メディア利用¹²

¹⁰ ここでいう「電子書籍」にはマンガ、雑誌は含まれず、それを断った上で回答いただいた。

¹¹ 複数回答の選択肢をひとつにまとめたため、3つの選択肢の割合の合計とは異なる。

¹² 図表13は複数回答の設問を図表化しているため、全体及び各学校種の割合を合計しても100%にはならない。

電子書籍での読書の保護者と子供間の関係

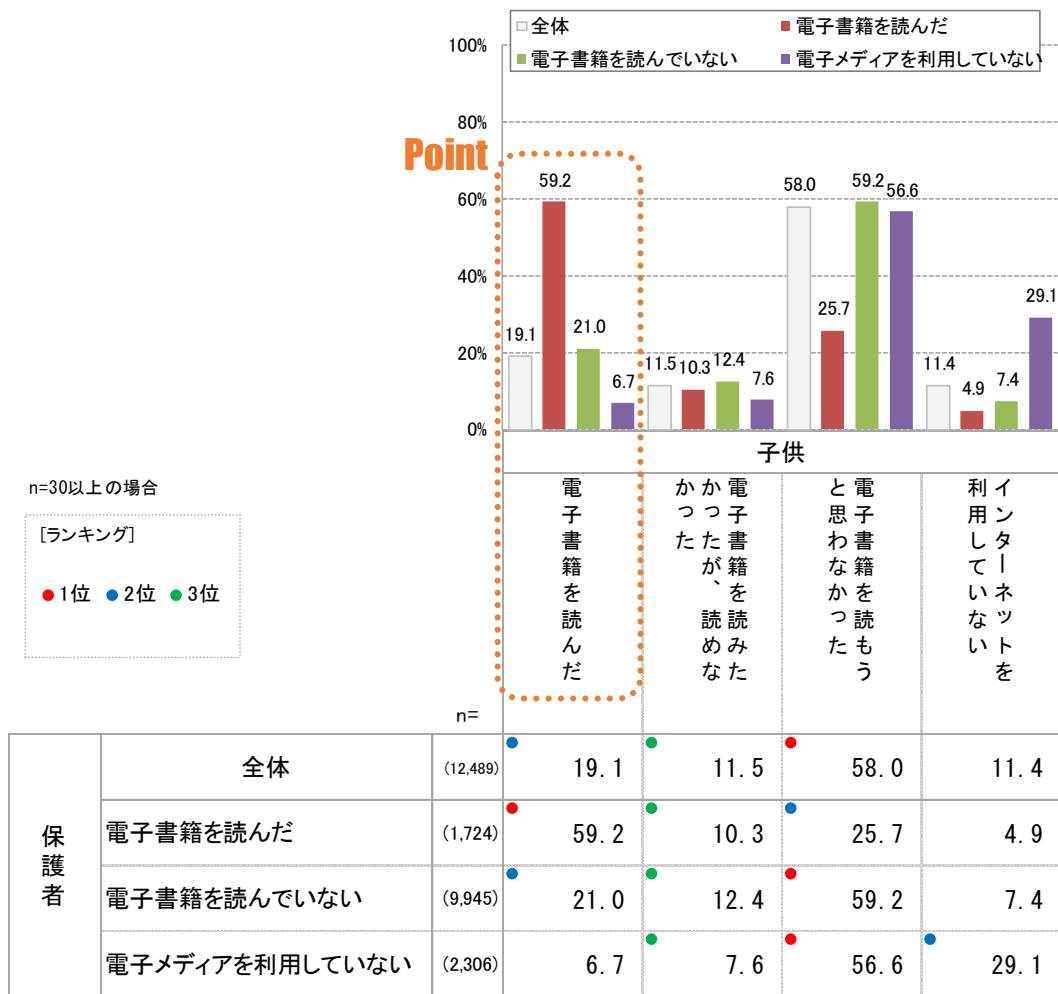
分析のポイント

保護者が電子書籍を読んでいると、子供も電子書籍を読むのか？

分かったこと

■保護者が電子書籍を読んだ場合、その他の場合に比べて、電子書籍での読書をした子供の割合が多く、約6割である。

○回答者全体でみると、保護者が過去1ヶ月間において「電子書籍を読んだ」場合、子供における「電子書籍を読んだ」は**59.2%**である。



図表14 保護者の電子書籍での読書と子供の電子書籍での読書の関係

地域の読書環境と子供の読書の関係

分析のポイント

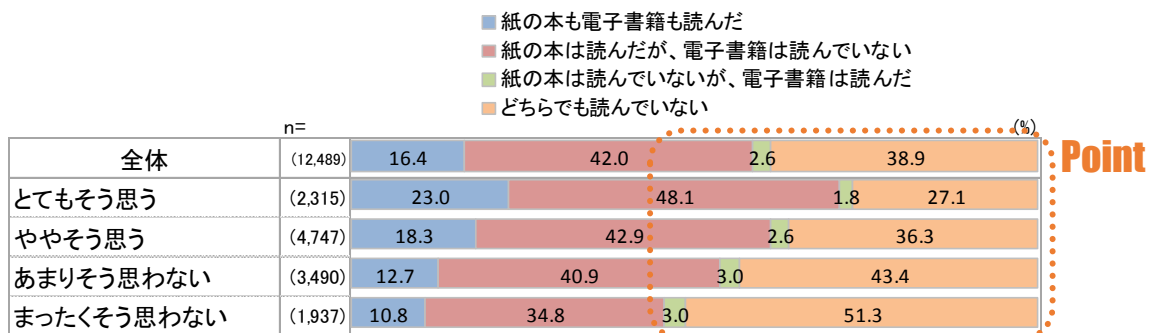
行きやすいところに図書館がある等の環境がある場合、 子供は本を読むのか？

分かったこと

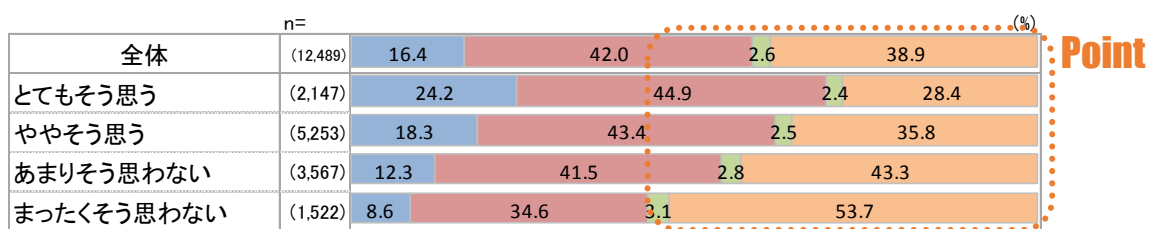
■図書館、書店・本屋に行きやすい場合、また学校図書館がいつでも自由に利用できる場合は、その他の場合に比べて、本を読む子供の割合が多い。

○子供にとって行きやすいところに図書館がある場合(「とてもそう思う」)ならびに行きやすいところに書店・本屋ある場合(「とてもそう思う」)は、その他の子供に比べて、「どちらでも読んでいない」が少なく、それぞれ**27.1%**、**28.4%**である。(図表15・16)

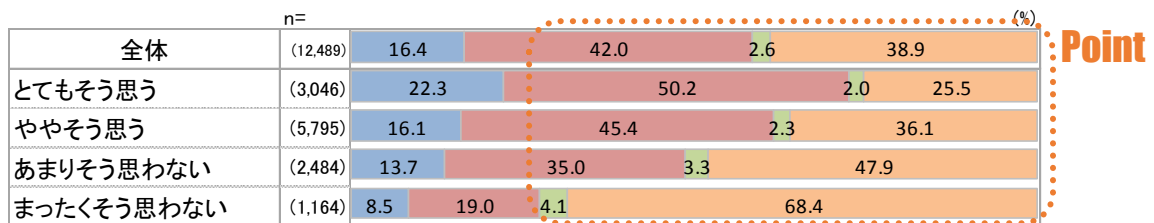
○学校図書館をいつでも自由に利用できるという子供(「とてもそう思う」)は、その他の子供に比べて「どちらでも読んでいない」が少なく、**25.5%**である。(図表17)



図表15 図書館の行きやすさからみた読書実態¹³



図表16 書店・本屋の行きやすさからみた読書実態



図表17 学校図書館がいつでも自由に利用しやすいかどうかからみた読書実態

¹³ 図表16・17の凡例は、図表15と共通である。

調査実施にあたって

○本調査の実施にあたり、子供の読書活動の実態や、電子書籍・電子メディアの利用等について造詣の深い有識者からなる調査検討委員会を設置し、調査手法・内容等について指導・助言をいただいた。

氏名	所属
(座長) 秋田喜代美	東京大学大学院教育学研究科教授
有山裕美子	工学院大学附属中学校・高等学校 司書教諭
井上昌幸	栃木県教育委員会事務局生涯学習課ふれあい学習担当 課長補佐
腰越滋	東京学芸大学教育学部総合教育科学系 准教授
竹村和子	公益社団法人全国学校図書館協議会 常務理事・事務局長
野口武悟	専修大学文学部 教授
濱田秀行	群馬大学教育学部 准教授

本調査の実施にあたっては、数多くの児童・生徒の皆様ならびに保護者の皆様にモニター調査にご協力いただいたことを、ここにお礼申し上げます。

平成30年度 文部科学省委託調査
子供の読書活動の推進等に関する調査研究

平成31年3月発行

文部科学省 総合教育政策局地域学習推進課
〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関3-2-2
電話 03-5253-4111(代)